

第3回「やまだ塾」

昨日 27 日午後、「やまだ塾」を八尾で開催した。昨年 12 月 12 日に第 1 回、今年 1 月 23 日の第 2 回は、コロナ禍によりズーム開催となった。私からコロナ危機と世界と日本そして大阪、「維新政治」10 年の現実、住民投票後の動きなどを話題提供した。「広域一元化条例案」と住民運動を中心に討論したが、ズーム開催でもあり、なかなか議論がかみ合わないことも。

第 3 回は再び八尾で開催することにした。美しい庭の見える会場で、距離をとって、対面でじっくり議論できた。庭の梅はすでに散っていたが、整然と並んだ石を眺めているだけで心が落ち着く。



まず、私から次のように話題を提供した。この 1 ヶ月ほどの関心あるテーマであり、レポートに書いてきたことなどだ。

- ・ コロナ禍の日本の政治、相次ぐ不祥事と疑惑、とくに総務省接待疑惑
- ・ 東京五輪／パラリンピック、「森騒動」、コロナ禍で開催していいのか
- ・ 地方自治を揺るがす愛知／名古屋のリコール署名不正、維新／吉村も
- ・ 大阪万博「基本計画」と夢洲リスク、「大屋根」と地元負担膨張の構図
- ・ 「広域一元化条例案」、陳情書とパブコメ、条例案にどう対応するか
- ・ 足もとの地域問題、市会を傍聴して、生野の学校再編問題を考える

討論では、生野区西部の学校再編問題をめぐり、取材を続けてきたジャーナリスト、地域に詳しい参加者からビジュアルに解説してもらい、活発に意見交換した。昨日レポートしたが、25 日の市会本会議で維新・公明の賛成多数により「大阪市学校設置条例の一部を改正する条例案」が可決された。これにより、生野区西部の小中学校は大規模に統合再編されることになった。住民が合意していない地域もあるにもかかわらず、いわば見切り発車のように再編が強行され、地域の分断に拍車がかかる。



生野区西部の学校再編は、地元の声を無視して、区役所や教育委員会が主導してきた。複雑な経過があり、地域ごとに賛否も分かれ、かなり温度差もある。小規模校の再編は、昨年 2 月に制定された大阪市学校活性化条例にもとづく。コロナ禍での統合・再編は、時代に逆行する動きでもある。今後「少子化」により、生野区のケースが全市に広がる可能性も懸念される。この問題は学校にとどまらず、地域社会、コミュニティにも関わる。「広域一元化条例」とともに、今後も注視していきたい。

(2021 年 2 月 28 日)